

(平成 26 年 10 月)

## 1 はじめに

宮古市は、岩手県の沿岸部の中央に位置し、東日本大震災では、死者・行方不明者が 567 名に上りました。

重茂地区は、宮古市中心部から東に位置し、宮古湾と山田湾に挟まれた東西約 18k m、南北約 30k m の太平洋に突き出た半島で、住民の約 90% がウニ・アワビ漁などの水産業に従事する地区です。半島にある鮭ヶ崎（とどがさき）は本州最東端にあたり、映画の舞台にもなった「鮭ヶ崎灯台」があります。

当地区には、小学校 1 校、中学校 1 校があり、地区内を 4 区域に分け、民生委員・児童委員 10 名（うち主任児童委員 2 名）で活動しています。

東日本大震災では、地震発生からおよそ 30 分後、大音響と共に遡上高 40.1m の想像を絶する大津波に襲われました。この津波の影響で建物が崩壊し、がれきなどで市中心部との道路が寸断され、当地区は一時孤立状態となりました。

また、死者・行方不明者 50 名、負傷者 15 名、被害総戸数 91 戸、その他漁船 800 隻余りのほとんどが被災するなど、甚大な被害を受け、当地区の委員 1 名も犠牲になりました。

## 2 現状紹介

### (1) 小学校の統合

当地区には、震災前、小学校が 3 校ありましたが、震災で被災した鶉磯小学校、千鶏小学校の 2 校が閉校となり、被災を免れた重茂小学校に統合されました。閉校式では、慣れ親しんだ校舎に感謝を込め、在校生が壁にペイントする姿を当地区の委員全員で見届けました。

小学校の統合により、それまでの少人数の学校から環境が変わり、また、新たな人間関係の構築が必要となるなど、子どもたちや保護者にとって不安が大きいようです。

また、重茂小学校の校庭には、いまだ応急仮設住宅があり、外で運動ができない状況が続いています。

### (2) 委員活動

震災後、定例会には、社会福祉協議会の生活支援相談員も出席し、応急仮設住宅やみなし仮設住宅に入居する被災者の状況等について情報交換を行なっています。

## 3 おわりに

全国の皆様から、たくさんの支援をいただき、誠にありがとうございました。

震災から 3 年半以上が経過しましたが、復興にはまだ時間がかかることが予想されます。これからも日々の活動に取り組んでいきますので、今後とも皆様方の励まし、ご支援をお願いいたします。



定例会の様子



閉校した鶉磯小学校の現在の様子